

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	淀川区
学校名	田川小学校
学校長名	上玉利 恭子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・田川小学校では、第6学年 50名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

＜平均正答率の結果＞

国語科・・・大阪市平均+7ポイント、全国平均+5.2ポイント

算数科・・・大阪市平均、全国平均ともに+2ポイント

理科・・・大阪市平均±0、全国平均-2.1ポイント

＜無回答率の結果＞ 無回答の比率はいずれの教科も大阪市平均、全国平均より低く、本校児童の粘り強く取り組む姿勢が見られた。

国語科・・・大阪市平均-1.7ポイント、全国平均-2.2ポイント

算数科・・・大阪市平均-1.3ポイント、全国平均-1.6ポイント

理科・・・大阪市平均-1.1ポイント、全国平均より-0.9ポイント

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】すべての領域において全国、大阪市平均を上回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」が対全国比+13ポイント、「読むこと」が+7.2ポイントと大きく上回った。多くの文章から必要な情報を正確に読み取る力が本校児童に定着してきているといえる。本校では、漢字検定への取組を継続的に行い、知識、技能の定着を図ってきた。それに加え、スクールアドバイザーと連携し、習得した知識や技能を活用する国語科の授業を実践してきた成果であると考える。

【算数】「数と計算」「図形」「測定」の領域は、大阪市平均、全国平均を上回った。特に「図形」の領域では、対全国比+4.1ポイントと大きく上回った。一方、「変化と関係」「データの活用」においては、対全国比には及ばず、習得した知識や技能を活用することが今後の課題である。

【理科】「生命」を柱とする領域では、大阪市平均、全国平均を上回ることができた。身近な動植物を育てたり、観察したりする実験を伴う活動を多く取り入れた成果である。一方、その他の分野では、いずれも平均には及ばなかった。実験の考察を深めていくことが今後の課題である。

質問調査より

○「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目を見ると、肯定的回答の割合が非常に高い。保護者や外部講師を招いての学校保健委員会や健康教育に関する取組を継続している成果が出ている。

○「読書が好きですか」の項目でも肯定的回答の割合が高かった。本校では、学校司書や地域の図書ボランティアと連携し、読書活動を充実させてきた結果であると考える。

○一方、「自分には、よいところがあると思いますか」に対しては、最も肯定的な回答の割合が大阪市平均、全国平均ともに大きく下回っている。すべての学習活動において、児童が主体となり、課題解決に向かう力を養うことで、自らの成長や達成感を感じ取れるようにすることが課題である。

今後の取組(アクションプラン)

○学習者用端末をより活用し、一人一人の個別最適な学びができるような指導方法・授業づくりの研究を深め実践する。

○主体的に学ぶ力の育成を踏まえた指導方法・授業づくりについてさらに研究を進める。その主体性が家庭学習にも広がるように保護者に啓発し取組を進める。

○算数科をはじめ、各教科の学習を通して、問題解決学習のプロセスを生かす学習活動を進める。

○今後も、校長経営戦略支援予算（淀川区・学校配布）とブロック化による学校支援事業予算を活用して、漢字検定受験に取り組む。

○算数科では、プリントとデジタル教材を活用し、基礎基本を繰り返すことで習熟を深め、応用的な問題にも対応できる力を養っていく。